

県指定史跡

な か み ぞ ふ か ま ち
中 溝 ・ 深 町 遺 跡

～古墳時代豪族のまつりとそのくらし～



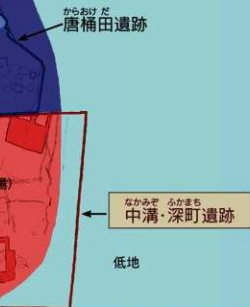
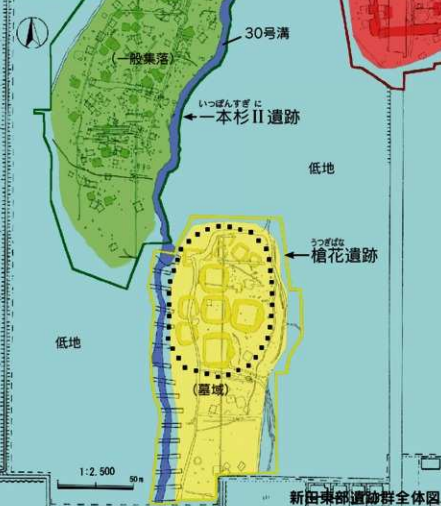
1号掘立住建物跡と石敷きの井戸（西側より遠方に金山を望む）

遺跡の概要

新田東部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成6年11月～平成8年8月）において、古墳時代前期（4世紀末～5世紀初頭、およそ1600年前）にこの地を治めていた豪族の生活の一端をうかがわせる様々な遺構や遺物がまとまって発見されました。まつりなどを執り行なう施設をともなう中溝・深町遺跡、住居を主体とした一般集落としての一本杉Ⅱ遺跡、方形周溝墓群を形成し、この地を治めていた豪族の初期の墓域であった檜花遺跡など遺跡ごとに特徴がはっきりと分れるものです。

中溝・深町遺跡の北側に隣接する中溝Ⅱ・唐桶田遺跡では部分的にはありますが、溝により区画された空間の存在が確認されており、豪族居館に関連する遺構の存在が想定されます。これらの遺跡群が共存し、ひとつの「むら」として営まれたことが明らかになったことは重要なことです。また、この遺跡群の南東約1.2kmには円福寺茶臼山古墳（5世紀初頭）があり、この古墳の被葬者との関係を考える上でも上記の遺跡群の存在は大変価値のあるものです。

これらの遺跡群の中でも、古墳時代のまつりに関わるめずらしい遺構がまとめて確認された中溝・深町遺跡の中心部約10,000㎡が平成10年3月に群馬県の史跡に指定されました。指定地は現在『小井井史跡公園』として整備され、一般に公開されています。



中溝・深町遺跡の主な遺構

1号掘立柱建物跡

溜池状遺構

中溝・深町遺跡を上空から撮影した写真です。道路を走っている乗用車と各遺構の大きさを比べてみてね！

1号・2号集石土坑

32号住居跡



17号溝

2号掘立柱建物跡

方形区画

東側の低湿地

3号掘立柱建物跡

22号住居跡

中溝・深町遺跡は、太田市新田小金井町の低い台地の上にあります。古墳時代前期を中心としたおよそ100年の間に様々な遺構がつけられました。最初のころは竪穴式住居などが中心でしたが、後わりころになると住居はつくれず、他の遺跡ではあまり見られない特殊な遺構がつけられるようになります。台地の南端部には溝（17号溝）に囲まれた方形の区画がつけられ、その中に大型の掘立柱建物跡（2号・3号掘立柱建物跡）が左右対称に配置され、その北側には住居三戸に囲まれた掘立柱建物跡（1号掘立柱建物跡）や石敷きの井戸（1号・2号集石土坑）がつけられました。遺跡の北東部には溜池のような長方形の大きな堀込みがつけられ、この中や遺跡の東に広がる低湿地からは農具や建築材などの木製品が大量に出土しました。

方形区画

17号溝

東西47m×南北20mの長方形の範囲を区画する溝で、幅は南側の広いところで約6m、北側の狭いところで約3mとなっています。溝の北辺中央部では溝が途切れていて、出入り口であったと思われます。また、溝の西辺及び南辺の一部に外から張出しを持つ部分があり、ここには溝を渡るための橋が架かっていた可能性があります。溝の中からは古墳時代前期の土器が大量に出土しました。



17号溝遺物出土状況

2号・3号掘立柱建物跡

溝によって区画された内側には2棟の大型掘立柱建物跡（2号・3号掘立柱建物跡）が左右対称に配置されています。東側の2号掘立柱建物跡は東西5.1m×南北7.7mの大きさで、西辺の柱穴からは柱とその沈みこみを防ぐための板（礎板）が出土していますが、東辺の柱穴からは柱だけで礎板は出土しませんでした。西側にある3号掘立柱建物跡では、発掘調査時は東辺の柱穴は道路により遺構が確認できませんでした。その後の確認調査で柱穴が一部確認でき、2号掘立柱建物跡と同規模の建物があったことがわかりました。

区画内には住居跡も数軒確認されていますが、17号溝、2号・3号掘立柱建物跡と同時期に存在したものは確認されませんでした。豪族の住んだ場所、倉庫、まつりを執り行なった場所などいろいろと考えられていますが、はっきりとしたことはわかっていません。



上空南側から撮影した方形区画（17号溝、2号・3号掘立柱建物跡）



柱と礎板の出土状況



(厚さ9.5cm)

2号掘立柱建物跡出土の礎板



17号溝出土の土器



2号掘立柱建物跡



方形区画周辺の復元予想図(北から)

※手前は1号掘立柱建物跡と石敷きの井戸



工具による加工の跡



縄をかけるための溝

2号掘立柱建物跡の柱穴から出土した柱には、柱の運搬時に縄をかけるための溝が彫られています。また、柱の底部には工具による加工の跡もみられます。

2号掘立柱建物跡の柱穴より出土した柱

1号掘立柱建物跡と石敷きの井戸

1号掘立柱建物跡は柱が二重に巡らされており、建物の四面に庇を持つ構造だと考えられます（復元予想図は前頁を参照）。大きさは外側の柱穴で8.2m×7.8mのほぼ正方形をしています。このような構造の掘立柱建物跡は古墳時代としては全国的にも例が少ないものです。また、この西側約5mのところには石を敷いた井戸が2基（1号・2号集石土坑）確認されています。ここからは土器などのほか、田畑を耕すための鋤の柄といった木製品も出土しています。1号掘立柱建物跡と石敷きの井戸はその位置関係から同時期に存在していたと考えられ、この施設で、水の恵みや作物の豊穡を祈るまつりを執り行っていたのかもしれない。



1号掘立柱建物跡と石敷きの井戸（上空から）



祭祀に使われた土器の出土状況



石敷き井戸から出土の鋤の柄



一本杉Ⅱ遺跡30号溝（南から）



儀式用の杖
（一本杉Ⅱ遺跡出土）

中溝・深町遺跡の西側に隣接する一本杉Ⅱ遺跡の30号溝からは大量の木製品が出土しましたが、儀式用の杖の一部など豪族がまつりに使ったと思われるが遺物も出土しています。

22号住居跡・32号住居跡

方形区画や1号掘立柱建物跡、石敷きの井戸などが造られるよりも前の時期に建てられた住居跡からも、特殊な遺物が出土しています。

22号住居跡からは小型の銅鏡（内行花文鏡）の破片が出土し、32号住居跡からはガラス玉が出土するなど古墳の副葬品（ふくそうひん）に使われるような遺物が出土しています。また、32号住居跡からはそのほかにも胴部下側にわざと穴をあけられた壺が出土し、住居の床下には小型の土器が埋納されていました。これらの特殊な土器はまつりに使われていたものと考えられ、何代にもわたりこの地を収めた豪族がこの場所でまつりを執り行っていたことがうかがえます。



銅鏡（22号住居跡出土）



32号住居跡出土の土器



胴部に穴のあけられた壺



床下に埋められていた土器



ガラス玉

様々な生活用具

中溝・深町遺跡の北東端で確認された溜池状遺構からは田下駄や漁に使う網のおもりに使われたと考えられる土鍾なども出土しました。また、遺跡東側の低湿地および中溝・深町遺跡に隣接する一本杉II遺跡の30号溝からは農具や建築材など大量の木製品が出土しました。これらは当時の人々の生活の様子をうかがうことのできる大変貴重な資料となります。

溜池状遺構出土の木製品等



溜池状遺構(東側斜め上空から)



田下駄(たげた)



土鍾(どすい)

低湿地出土の木製品



東側の低湿地(空中から)



鎌(くわ)



又鎌(またくわ)



ほぞ穴のあいた柱材



梯子(はしご)

一本杉II遺跡30号溝出土の木製品



一本杉II遺跡30号溝木製品出土状況



穴をあける加工を施した板材



横槌(よこづち)



鎌の柄



掛矢(かけや)

太田市教育委員会 文化財課
〒370-0495 群馬県太田市粕川町520
TEL.0276-20-7090 FAX.0276-52-6080
印刷 平成22年3月